

【資料3】

令和7年度 宝塚市自立支援協議会 専門部会活動経過報告書

●けんり部会活動経過報告	1
●くらし部会活動経過報告	8
●しごと部会活動経過報告	12
●こども部会活動経過報告	19
●事務局会議	22
●特定相談支援事業所連絡会	23



令和7年（2025年）10月
宝塚市自立支援協議会

● けんり部会 活動経過報告

第1回 けんり部会 会議議事録	
日時・場所	令和7年6月17日(火)13:30~15:30 4階 大会議室
出欠者	出席者:14名 欠席者:2名
議題	内容(決定事項等について)
1. 常任委員紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・常任委員自己紹介。 ・部会長、副部会長選出、承認。
2. 令和6年度宝塚市自立支援協議会全体会の報告	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局より、「令和6年度第2回宝塚市自立支援協議会全体会」について報告。
3. 宝塚市自立支援協議会について	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局より宝塚市自立支援協議会・組織図について説明。 ・宝塚市の理念は「障碍(がい)のある人が自立し、安心して暮らせるまちづくり」。 ・今年度より障碍(がい)福祉基金活用検討会が発足。7月18日(金)に第1回を開催予定。
4. 地域移行支援事業の進捗について	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局より報告。 <p>令和6年度の実績は、病院9件、施設1件。令和5年度は病院2件、施設3件であり、総数として実績件数が増えている。令和7年5月末現在で昨年度から継続支援が1件あり、新規相談も4件入ってきていることから、今年度も地域移行支援事業及び退院支援については積極的に取り組んでいきたいと各委託相談から声が上がっている。</p> <p>今年度より、新規相談経路の把握や支援状況、退院先等についても細分化し把握していく予定で、実践の中から見えてきた課題については事務局会議で共有し、けんり部会でも報告できるよう考えている。</p> <p>【質疑応答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域移行支援事業の対象者は1年以上入院している人となるのか。⇒1年以上入院している方以外に、再入院リスクの高い方、入退院を繰り返す方、1年未満でもこのままでは社会的入院が継続される可能性が高い方などについては対象となる。昨年度の支援実績にはこのような方も含まれる。 ・実績とは、支給決定された件数と捉えてよいか。⇒その通り。
5. 昨年度の振り返りと今年度の	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局より、令和6年度第2回宝塚市自立支援協議会全体会けんり部会の資料を抜粋し振り返りを行う。

取り組みについて意見交換

【今年度の取り組みについて意見交換】

○意思決定支援

・意思決定支援は難しい。なかなか本音を言えない方やその場の雰囲気です発言を変える方もいる、親であっても本音は分からない。本人に代わり親が全て決めてきた時代もあり、本人は選ぶ経験すらなかった。知らないと選ぶことはできないし、経験しないと選べない。意思表示出できるよう支援を考えても、時間も労力もかかる。

・本人に退院意欲があっても、精神年齢が幼く、長年引きこもり生活であったことから病院でも何もできない方がいる。主治医は「何とかなるのではないか。」と言うが、退院後の支援を考えたときにヘルパーがずっと一緒にいられるわけでもなく、サービスの支給量にも限界はある。カンファレンスを開き、病院内の支援者も集まり話はするものの、アプローチに悩んでいる。家族の不安も大きい。⇒中間施設のようなところがあればよいのだろうか。具体的にどのようなところがあればよいか議論することも一つかもしれない。家族だからといってすべてを担う必要もない。

・医療保護入院の方など、どこまで本人の意思決定に浴えるのかと考える。意思表示があったとしても、本人の特性や疾病を考えた時、本当にそれでよいのかと思うことがある。

・近年、意思決定支援と言われるようになったが、法制度的に大きく変わっているようには感じない。A か B という選択肢だけではなく、サポートがあればもっと多くの選択肢から選ぶことができるのではと感じるが、現実的には難しいとも感じている。

・自分で決めたとしても、意思は変わってくるもの。一度決めたら終わりと思うと、難しいと思う方もいるのではないか。その時々でいろんなルートが選べたらよい。

・気管切開を主治医から問われた時、本人が意思表示することが難しかったことから、本人に代わり高齢のおばが「かわいそうだからしない」と返答した。このおばも病状理解ができていなかったと思われるが、本人は病状が悪化し亡くなってしまい、意思決定のもどかしさを感じた。医療同意は本人のことを一番わかっている人に、本人ならどう言うだろうかと考え返答してほしいが。

・支援につなげようと思っても、本人が拒否すると支援に入ることができない。法に触れる恐れのあるような問題行動がある方など、本人の意思や意向をどこまで尊重する必要があるのかと葛藤もある。意思決定支援を皆同じベースで考えることは難しい。

⇒本人の拒否があっても、家族と繋がることができれば支援につなげていく機会を探ることは可能。家族にも困りがあり、家族を矢面に立たせることをし

ないことも大切で、家族は最後の手段と捉えることも場合によっては必要と以前に研修で学んだことがある。

・意思決定支援において、本人の希望を聞いていくには時間がかかる。本人の困り感を引き出していくことにもなり、聞いていくことは大切。

○成年後見制度

・8050 問題の一つとして、親亡き後の相談から成年後見制度の利用を検討することがある。親は「最期までみてくれる先生（専門職）を」との思いが強く、本人とのマッチングを考えて先生とつなぐのだが、親の期待とのミスマッチに悩んでいる。

・金銭的課題のある方が精神科病院から退院するとき、退院条件として成年後見制度の利用を言い渡される時があるが、本人は制度利用に乗り気ではなく、なかなか話が進まないこともある。

・成年後見制度を利用している施設利用者がいるが、成年後見人により動きの差異はある。頻回な面会と、本人と一緒に外食に出かける方もいれば、必要最低限の面会のみの方もいる。

・成年後見制度は法律が変わろうとしているところにあり、状況を見ながら話をしていきたい。

○その他

・障害（がい）種別により、公共交通機関の割引制度に格差がある。割引があれば外出先が広がる等の声を精神障害（がい）の方からアンケートで聞き取っている。

・短期入所の標準支給量は市によって違う、施設入所の方の移動支援の利用可否も市によって違う（宝塚市は利用不可）。福祉サービスに市町村格差がある。

・本人の問題行動などで悩む家族が、相談先が分からないケースがまだある。状況に応じ、保健所や障害（がい）福祉課などを伝えるが、どうやったら相談窓口を広められるかと思う。

・災害時要援護者支援制度について、計画相談の相談員にも協力を求めながら、まずは自身の避難場所がどこか知ってもらうようにしたい。

・防災の取り組みは地域差があるのではないか。

・防災だけではなく、地域での暮らしを考えた時、障害（がい）者理解が大切になるのではないか。知らないから怖いなどの思いが出てくる、どう声をかけてよいのか分からない。日ごろの地域との触れ合いが大切になると感じる。

※今年度の協議テーマについては、挙げられた意見も参考に事務局で検討し、次回提案することとする。

6.その他	<p>令和7年度けんり部会開催スケジュール</p> <p>第1回 令和7年 6月17日(火) 13:30~15:30 4階大会議室</p> <p>第2回 令和7年 8月19日(火) 13:30~15:30 会議室A</p> <p>第3回 令和7年10月17日(金) 13:30~15:30 会議室A</p> <p>第4回 令和7年12月17日(水) 13:30~15:30 会議室A</p> <p>第5回 令和8年 2月18日(水) 13:30~15:30 会議室A</p>
-------	---

第2回けんり部会 会議議事録	
日時・場所	令和7年8月19日(火) 13:30~15:00 会議室A
出欠者	出席者:15名 欠席者:2名
議題	内容(決定事項等について)
1.地域移行支援事業の進捗について	<p>・事務局より報告</p> <p>地域移行支援事業 支援中の件数 病院:0件 施設:0件</p> <p>地域移行支援事業 支援終了の件数 病院からの退院:1件 施設からの退所:0件</p> <p>病院:昨年10月からK病院で地域移行支援を利用していた方が6月にグループホームに退院済み。特定相談からの依頼でO病院(8月~)、T病院で地域移行支援を予定。A病院から打診があり、8月から地域移行支援を予定。</p> <p>施設:特定相談からの依頼でなくさ育成園にて8月から地域移行支援を予定。</p> <p>地域移行支援を行うにあたり、利用者に説明するパンフレットがあるとよいと声が挙がったことから、事務局会議にて現在パンフレットを作成中。完成した際には、けんり部会でもお披露目を予定。</p> <p>質疑</p> <p>・K病院からの退院のケースで、グループホームへの退院など支援を行うにあたり困ったこと、悩んだことは上がっていたか。支援してきた経過を教えてください。→詳細はわからないが、本人と何度も宝塚市に足を運び、どのような地域なのか知る機会を持つことで、どこでどのように暮らしていくのかを考える機会となったと聞いた。</p>
2.意思決定支援について	部会長より講義
3.グループワーク	※これは事例検討ではない。この話を聞いたあなたがどう考え、Aさんに返していくのかをグループ内で出し合う。また、このワークには正解はない。思ったままに意見を出し合ってほしい。

【架空事例】

48歳の独り暮らしのAさんが「もうお金が1,000円しかない。今からパチンコに行って増やしてこようと思っている。」と話した。この話を聞いたあなたはどのように思うか、どうしていくかをあなたの立場で考え、意見を出してほしい。

2グループに分かれ、グループワークを実施。

【Aグループ】

・「次いつお金が入るか。」「本当に困ったとき、どうするのか。」「パチンコに行って今まで成功したことあるのか。」「これからどう生活していくのか。」と状況確認をしつつ、まずは本人の意向を確認する。否定することなく、本人の思いに寄り添いながらも、必要に応じて生活保護、せいかつ応援センター、フードドライブなどの情報提供をしていく。

・本人が失敗しながらも学べるような支援を考えていく。

・本人が納得するやり方で、優先順位を整理していく。一緒に考え、本人を否定しない。

・本人の思い描く状況に対し、どのような選択肢を提示できるかが大切。

【Bグループ】

・本人の発言を否定はしないものの、「いつもやっていることなのか。」「食べ物あるのか。大丈夫か。」「助けてくれる人はいるか。」「次いつお金入ってくるか。」「勝てなかったらどうするのか。」と思うことはたくさんある。

・「あなたのことが心配」と伝えたくて、勝っても負けても教えてほしいと関わりが途切れないよう声掛けをする。本人から「困っている」とあれば、せいかつ応援センターなど支援につなげることを考える。

・そもそもなぜパチンコをするのだろうか、日中の過ごし方などの話を聞いていく中でみえてくるものもあるかもしれない。

○部会長より講評

両グループともに、Aさんの意向を頭ごなしに否定しない意見でありよかった。今後も引き続き相談を受ける関係性の構築のためにも、否定しないことは必要。グループワークで挙げたすべての意見がAさんとの関わり方の入り口としてよいと思う。

相談を受けた人とAさんとの関係性は事例からはわからないが、Aさんから言ってきた。これはAさんがSOSを求めてきた可能性があると考えられることまでできる。

この事例ではAさんに寄り添った意見が出されたが、Aさんのお金を管理する立場にあるとしたらどうだろうか。同じ意見が出たかはわからない。

保護と意思決定支援の関係性を考えるためにも、いろいろと話を聞くことは

大切。パチンコに行く理由は何か、行くことが目的か、お金を増やすことができない可能性があること、本当に増やせると思っているのであればそのリスクについて伝える必要もある。行くことが目的であれば、今の状況では行っている場合ではないと説明しつつ、代替手段がないか考え伝えていく必要もある。伝えていくためには関係性ができ、提案できることが前提になる。

○グループワークを行っての意見・感想など

・毎日やることがない、生活に張りがない、喜びを感じることもない。故にパチンコに行ってしまう、際限がなくなり止めるすべがなくなった人が実際にいた。お金の問題だけでなく、なぜパチンコに行くのか理由を考えることも一つ。この人にとってのパチンコとは何か。

・この事例では、Aさんは自分を見てほしいと感じた。

・グループワークでは、どこまで想像して考えることができるのかを試されていると感じた。たくさん考えるきっかけとなった。

・「どこかにつなぐ」との意見が出たことがすごいことだと思った。

・本人が納得するように話をしていくこと、信頼関係を作るためにも不安にさせないことが大切で、日常においても必要なことだと感じた。

・本人を否定しない声掛けは、分かっているが葛藤を感じながら日々支援をしている。

・本人の経験値や価値観からの発言が出てくる中で、支援者がいかに選択肢を提示できるかが大切になってくると感じる。

・今回の事例のような相談は警察ではよくある。言ってくるということは SOS を出していることと考えるようにしている。状況確認は必要で、本人の話を聞く姿勢が大切。支援につなげていくためにも、市役所の各課の役割を覚えるなどもしているし、実際に支援者と顔が見える関係が築けていることもありがたい。支援者同士のつながり、輪を広げることも大切。

・本人の気持ちからスタートするが、こちらの思いや考えを伝えることで本人の気持ちが変わる可能性にかける時もある。誘導的にならないようにとは思っているものの、葛藤もある。

・就労継続支援 B 型事業所で働いているが、利用者から相談を受けることもある。日常でどうしたいと聞かれることもあるが、なかなか自分の立場で返答することが難しいことも多く、事業所の職員や相談支援の人に相談するよう告げたりしている。けんり部会に参加することで考える機会、知る機会としていきたい。

・状況によってかわり方は変わるため、一概には言えず難しいと感じる。

・今は SNS など含めきらびやかで、欲望を刺激する社会だと感じる。その中で関係性を作ったとしても折衷案や代替案を出せるか、難しいと感じる。

・周りは困りを感じているが、本人が困りを感じていない場合の関わりについて悩ましく感じる。関係性を築く中で伝えたとしても、本人が望まないことはできない。介入タイミングを見ていくしかないと思うが難しく悩ましい。

・「なんでお金がないのか。」「これからどうしていくのか。」が先に浮かんだ。寄り添っていくことから始めることが大切だと感じた。

・今回は参加者が「本人を否定しない」という同じスタンスであったが、仮に家族から違う意見が出ると難しくなる。

・本人中心に考えたとき、いろんな意見が出ると感じたし、初心に帰ることが大事だと感じた。

○部会長よりまとめ

本人に否定的なことを言わないことは前提にあるが、お金を使わずにいてほしいと伝えること、誘導することはありだが、あからさまに結論を変えようとするはなしで、これは意思決定支援ではない。本人に決めてもらうための情報提供は必要で、リスクも伝えながらなぜそのようにするのかを伝えていくことが大切。聞き方の意識を持つことは大切で、人は変えようとされると反発するものである。

今日の意見なども踏まえ、今後については事務局と相談し考えていく。

【今後について】

今年度は「意思決定支援」をテーマに協議をしている。

けんり部会に参画する委員とともに意思決定支援について考えるグループワークを実施したが、「気づきの機会になった」との意見が多く出た。

意思決定支援は個人の価値観や考え方に大きく左右されるものでもあり、人の意見を聞くこと、やり取りをすることの大切さを改めて感じる機会となった。

今後どのように深めていくことができるのか協議を予定する。

● く ら し 部 会 活 動 経 過 報 告

第1回 暮らし部会 会議議事録	
日時・場所	令和7年6月13日(金)14:00~15:30 会議室A
出欠者	出席者:15名 欠席者:2名
議題	内容(決定事項等について)
1. 自己紹介	常任委員紹介、自己紹介を行う。
2. 説明	基幹相談支援センターより自立支援協議会の説明を行う。
3. 医師会アンケートに関して	<p>○背景・目的 医師会アンケートは、元々かかりつけ医についての議題から始まった。身近に診てもらえる医師がいれば、在宅診療や訪問診療の活用が進むのではという問題意識から、市内の実施医療機関を把握するために実施した。</p> <p>○本年度の議論内容(昨年度からの引継ぎ) アンケート結果の活用方法を検討し、障碍(がい)当事者の意見調査も実施予定。</p> <p>○事務局(基幹・委託相談)からの意見 アンケート結果は事務局で一括管理し、個々の医療機関に都度確認する手間を軽減する方法はどうか。医療機関名の公表も含め医師会事務局に確認予定。</p> <p>○委員からの意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護や往診の活用で安定した生活を送れている事例もあるので、この結果を共有してもらえると有難い。 ・基幹相談で情報を集約し、計画相談がそこに問い合わせる方式はどうか。 ・医療マップに情報を可視化して整理してみてもどうか。 ・高齢者にも対応できる医療機関情報も一元化する方法はどうか。 ・各地区の委託相談が地域の医療機関情報を把握し、個別支援に役立てるためにも情報の共有をするのはどうか。 ・事務局会議でどんな情報があればいいかを確認するのはどうか。 (例:医療的ケア児の対応をしてもらえるかなど) ・教育委員会が運営する医療的ケア委員会との連携や、その関係者をオブザーバーとして招いてみてはどうか。
2. 障碍(がい)理解の啓発に関して	<p>○背景・目的 ・障碍(がい)者に対する恐怖心等をなくしていく、無関心層への啓発が課題。無関心層へのアプローチが難しく、まちづくり協議会(以下、まち協)・地域と連携しながら検討していく。実施案として、まち協の今年度計画作成に向けて、各団体が行っている障碍(がい)啓発に関する取組みをまとめた冊子を作</p>

成する方針となった。

○委員からの意見

①添付資料について

- ・宝塚ボランティアプラザ zukavo の福祉学習プログラム集に記載した内容と同じの内容を今回の資料にも記載しているが、記載が主観的で統一されておらず、活用が難しいのではないか。
- ・福祉学習プログラムと今回資料の目的を明確に区別し、福祉部の研修などで活用する方法はどうか。

②計画策定とスケジュール

- ・今年度は後期計画の見直し年度で、来年3月までに各まち協で計画策定予定だが、まち協ごとに進行が異なるため、情報提供のタイミングや形式に工夫が必要ではないか。
- ・この資料は情報量が多く、活用が難しい。内容の整理が必要ではないか。
- ・毎月開催している、まち協代表者交流会にて啓発をしてみてもどうか。
- ・まち協によって見直しの取組み時期が異なるため、8月にこだわらなくてもよいのではないか。

③障碍(がい)者の声を届ける仕組みと連携

- ・まち協主催のネットワーク会議や障碍(がい)当事者が参加している会議もある。実際に障碍(がい)当事者もイベントに参加する。防災に関連する話題だと障碍(がい)を絡めやすい。
- ・表に出にくい方々との関わりや、地域内の相互理解の関係性構築が重要であり、まち協の行事に直接参加して障碍(がい)者への理解を促してみてもどうか。

④障碍(がい)理解の啓発とイベントへの組み込み

- ・子どもの頃から障碍(がい)に対する理解を深めることが、成人後の理解を深めるために重要。そのためには学校との連携が必要ではないか。
- ・既存イベントに障碍(がい)者との交流を組込む形での取組みが必要。
- ・スポーツ協会の協力を得て、養護学校などに視覚的に分かりやすい資料を配布してみてもどうか。

第2回くらし部会 会議議事録	
日時・場所	令和7年8月1日(金)14:00~15:30 会議室A
出欠者	出席者:10名 欠席者:2名
議題	内容(決定事項等について)
1. 医師会アンケート(以下アンケートと称す)に関して	<p>○事務局より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果を医師会に返答しようと考えているが、加えてどういう情報を合わせて伝えていいのか委員の皆様に向う。 ・アンケートで特に訪問診療・往診(行っている・条件に付きで行っている)に回答した診療所を抽出して一覧表にしていくという提案を行う。 <p>○委員からの意見</p> <p>① アンケートの管理方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートに回答した医療機関名を公表し、医療マップとして活用したいが、公表が難しいのであれば、「条件付きで行っている」「行っている」「行っていないが要相談」と回答した医療機関に許可を取って、情報を集約していく。その情報を基幹相談で管理し、問い合わせがあれば、紹介する形はどうか。 ・基幹相談に医療機関の情報があるという周知も大切であり、計画相談や民生児童委員には伝えるのはどうか。相談を受けた方が困った時に相談先の周知が必要。 ・基幹相談と委託相談でデータを持つのが良いのではないか。 <p>② アンケート結果や活用方法について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院患者が退院時に、診療所を紹介する時に(医療機関が頼みやすいところを紹介するため)偏る傾向にある。今回のアンケート内容を踏まえ、居住に近い診療所を紹介していく形になればよいと期待している。 ・訪問診療や往診に特化してしまうと、アンケートを取った意味がなくなるのではないか。アンケートの目的はかかりつけ医がいなくて、急性の病気になったときに障碍(がい)当事者やその家族も受診ができない場合、見てくれる診療所を探そうと始まった。訪問診療=かかりつけ医となる。 ・急に病気に罹り診てもらおう場合と急に来てほしい場合(往診)を中心に集約するのが良いのではないか。 <p>③ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの議論での発言の内容(医療機関のかかり方)をまとめ、障碍(がい)のある方が見て分かるパンフレットを作るか、計画相談で対応できるマニュアルを作る等、形に残すのも一つではないか。

	<p>○今後の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの返答方法は、委員からの意見を元に事務局で検討する。 ・これまでの部会での議論内容（医療機関のかかり方）をまとめる。
<p>2. 障害（がい）理解の啓発について</p>	<p>○事務局としての提案（振り返り）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり協議会（以下まち協と称す）が行っている会議に委員が参加し、知っていくのはどうか。その時に手持ち資料を活用していく。 <p>○委員より</p> <p>①まち協への参加について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まち協の参加にあたっては、具体的に部会としてどのようなアクションを起こすのかを決めてから行くのはどうか。 ・まち協で今後子どもを対象とした取組みを想定しているところに、障害者団体がどのような取組みができるのか説明するののも一つではないか。 ・防災の視点からアプローチするのはよいのではないか。 ・障害（がい）のある方に避難訓練で声掛けが行われておらず、行事に参加できるよう、声掛けを行うシステムを作る必要があるのではないか。 ・障害（がい）当事者などに個別案内が難しい場合は障害者団体に声をかけてもらうのはどうか。 ・回覧だけ回ってきても参加しようとは思わないが、直接声掛けすると参加の意欲が高まる。防災訓練を切り口に啓発するののも一つではないか。 <p>②障害（がい）啓発（まち協参加以外）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害（がい）の理解には小さいころから障害（がい）のある方と触れ合う機会を作るのはどうか。また、障害（がい）のある方が出向くこと（飛び込めるイベントに参加）も大切だと思う。 ・支援学校ではトライやるウィークで受入れ先がないという話があり、企業や民間事業所への働きかけを行うのはよいのではないか。 ・すみれ隊の活動を民間事業所向けに働きかけていくのもよいのではないか。 <p>④ 今後の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練や地域での活動の情報を収集する。 ・まち協に直接出向き、各団体の取組み内容について説明する。その際の持参資料を修正する。

<今後の取り組みについて>

●医師会アンケートについて

アンケート返答方法は、委員からの意見を元に事務局で検討し、これまでの部会での議論の内容をまとめる。

●障害（がい）理解の啓発に関して

防災訓練や地域での活動の情報を収集する。また、まち協等に直接出向き、各団体が行っている取組み内容について説明する機会を設ける。その際の持参資料を修正する。

● し ごと 部 会 活 動 経 過 報 告

第 1 回しごと部会 会議議事録	
日時・場所	令和 7 年 5 月 15 日(木) 14:30～16:00 会議室 A および Zoom
出欠者	出席者 15 名 欠席者 2 名
議題	内容(決定事項等について)
1.しごと部会三役の選任式	<p>〈前部会長より、三役についての説明〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の三役選任を行う。
2.自己紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・委員・事務局より自己紹介を行う。
3.自立支援協議会についてと自立支援協議会全体会の報告について	<p>〈しごと部会事務局より〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援協議会についての説明。(資料参照) ・自立支援協議会全体会の報告。 ・組織図の説明
4. 共同受注窓ログッドジョブからの報告について	<p>〈グッドジョブより〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グッドジョブの成立ちについて説明。 ・会員 27 事業所で現在 18 事業所契約更新。 ・工賃の事だけでなく安心・安全な支援体制づくりを目指す。
5.「事業所合同説明会」の開催について	<p>〈しごと部会の取組みについて〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しごと部会として就労の促進・雇用促進・工賃水準の向上・合理的配慮について合同説明会や雇用啓発セミナー等を実施してきた。協議内容として社会貢献視点ではない雇用の在り方、戦力になるための雇用の在り方について協議をしてきた。今後は学齢期・高齢化した障碍(がい)を持つ方の就労についても協議をしていく。自立支援協議会が根拠ある地域課題を抽出できるような仕組みを作ることができるようにしごと部会から提言し、自立支援協議会全体会の活性化を目指す協議していく。 ・今年度も合同説明会を実施するにあたり、事前説明会を行い参加した福祉事業所の方に自立支援協議会を理解してもらうために説明を行った。 ・事前説明会 5 月 12 日実施。15 事業所 16 名の参加。 ・自分事として考えていける仕組み作り。(研修・勉強会・説明の場等) ・合同説明会はこれまでしごと部会が中心に作業部会を運営していたが、今後は市内の福祉事業所中心に運営し、しごと部会がバックアップしながら進めていきたい。 <p>〈合同説明会について〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8 月 2 日(土曜日) 13:00～16:00 アピアホールにて。

	<ul style="list-style-type: none"> ・当日イベント終了後、片づけの前に振り返り。 ・コンシェルジュについて、前年度プレで実施したが公平性の担保が難しかった。今回は受付にてエリアマップで案内した。 ・冊子の作成。 ・チラシについて、6月中旬に出来上がる予定。
6.年間スケジュールについて	<p>〈年間スケジュールについて〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月2日合同説明会 ・作業部会の運営につて8月もしくは9月で設置・移行していく。 ・しごと部会の定例開催日時(第3木曜日)の変更について、日程調整を行う。(7月より変更)
7.お題について	<p>〈お題について〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も「はたらく」について自身の振り返りも含めて実施。
8.その他	<p>〈委員より〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は、2・3年生縦割りで10名程の方に車椅子のメンテナンスを実習した。今年度も学校に宝塚育成事業所が行き、生徒の学びの機会を検討している。今年度は、2・3年生縦割りだけでなく職業事業の中で1類型・2類型とグルーピングをして学びの場の提供を実施できればと考えている。重度の方は難しいではなく2類型の生徒にも提供していく。これが一つの学びの場となり10月末の現場実習に繋がられる。就労継続支援B型事業所がしている軽作業などを校内で仕事を提供してもらえる体制が作れたらと考えている。 ・自立支援協議会で出ている学校内で実施できないかがスタート地点で県立の学校と宝塚市自立支援協議会だけの難しさがあった。育成事業所に来るための授業ではなく、仕事の体験をすることを実践している。昨年は、1類型のしっかりとしている方が中心の授業だった。特例子会社対象と思われる方も親の交通機関が心配だから就労継続支援B型事業所での意向がある。地域で重度の方もしっかりと働ける、学校内で様々な体験や経験の機会を持つ体制が必要だと思う。 <p>〈新しい委員からの感想〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門用語があったが、地域で多様なことを実践していると感じた。 ・色々な課題があり、これから考えていくことがよぎっている。支援学校の方が体験して選択する機会となっていたのか。これから自分の事は自分で決める機会が増えればと思う。 ・難しい言葉が多かったが、熱心な活動は確認できた。 ・自分の事業所として取り組めることがあれば頑張りたい。

第 2 回しごと部会 会議議事録	
日時・場所	令和 7 年 7 月 3 日(木) 14:30~16:00 会議室 A および Zoom
出欠者	出席者 17 名 欠席者 1 名 傍聴者 2 名
議題	内容(決定事項等について)
1. 共同受注窓 ログッドジョブ からの報告につ いて	<p>〈グッドジョブより〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 7 年度、27 事業所で前年度同額の補助金申請中。 ・選挙関係の仕事が増加傾向、今年度も 105%を目指す。 ・今後の流れとして、救護施設なくさ厚生院と連携。
2. 「福祉事業所 合同説明会」の 開催について	<p>〈グッドジョブより福祉事業所合同説明会について〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業部会に 4 事業所が参加。 ・8 月 2 日(土曜日) 13:00~16:00 アピアホール。 ・チラシ出来上がり学校・事業所等に配布。(サポート校にも配布) ・冊子作成中で 7 月中旬宝塚市ホームページにアップ予定。 ・合同説明会終了後に参加した事業所で振返りを行う。振返りの方法についてはグループワークで行う予定。
3. お題について	<p>〈下記事前課題について各委員の考えを共有〉</p> <p>① あなたにとって「はたらく」とはなにか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3回目でも「はたらく」は変わらないと思っている。生活を維持するもの、自分の居場所と考えている。何年目でも変わらない。 ・社会の中で誰かの役に立てる。以前の仕事は就労継続支援 B・A 型事業所など福祉就労の支援をしていたが、現在は一般就労の支援をしている。福祉的な就労を含めて一般就労でも仕事について家族以外の方からありがとうと言われて自信を取り戻していくのを見ると誰かの役つのは良いと思う。 ・4年目になる。考えてあまり変わらないと思いつつ、誰かのためにと思っている。ヘルパーをしている、息子が知的障碍(がい)で誰かのために役に立ちたいと思って仕事をしている。日々、新しい出会いがあり学びになっている。学んだことを活かした働き方が出来たらと思っている。 ・生活に不可欠なもの。100 人いれば 100 通りの考えがあると思う。特別支援学校などで繋がりをもつと「はたらく」ためのきっかけを聞くことがある。答えを求めているわけではなく先生・家族と答えを出すのが正解と伝えている。 ・経営者と話す機会が多い。経営者は仕事と生活の境目がない方が多い。ON・OFF が切り替わる育児・趣味と仕事の切り替えが大事だと思う。 ・社会の中で与えられた役割を果たすことだと思う。家では家事の役割、仕事上での役割など人生を形成する上で必要な事。IL センターに車椅子の方が多く、動画配信にクイズがあり「電動車椅子は飲酒運転しても良いかダメか」等の動画配信を仕事にしていたのが印象的だった。「はたらく」を固定概念で

とられず考え方が広がった。

- ・若い時は当たり前「はたらく」＝「お金」が年を重ねるにつれ、お金を稼ぐことから考えが変わってきた。高齢の父親が毎日「何かすることないか」と聞く。自分の施設は重度の方が多いが何か役に立てることがあるのか。自分は役に立つことがないのか、役割を持って生活する事が「はたらく」なのではないかと思う。
- ・「はたらく」とは、生活費を稼ぐことで生活には大事だが、生活費を稼ぐために働いていると日常が味気ないものになってしまう。「はたらく」事を通じて社会貢献や新たな知識を得て成長につながるのだと思う。
- ・任される仕事があるからこそ働き続ける事ができ、必要とされているから頑張っている。去年は貢献という言葉をつかって「はたらく」を表現したが、「はたらく」の伝え方が変わってきたと思う。はたらく人が少しでも楽になるように気にかける事、例えば家の中で空き缶をつぶす・ペットボトルを分別するはリサイクル業者の手間が省けて貢献できている。貢献と合わせて就労継続支援B型事業所で安心してはたらくだけでなく、人のためになることも大事であると進路指導をする。どうしたら社会貢献できるのか職員からも伝えてほしいと言っている。
- ・2回目ではほとんど変わっていない。自身の成長につながる事。リフレッシュする事。昨年と変わらないが、人と人のつながりが大事。ワークライフバランスを意識している。
- ・「はたらく」とは4回目だと思う。昨年と大きく変化はない。「はたらく」とは何か、共有する社会・支援する社会などアクションを起こす事。自分中心のエゴではなく偽善的な考えではなく人は一人で生きていけない。コミットできるはたらく状況があれば、社会システムが足りていないので課題を発見する事になる。そこから変えていくことがアクションにつながる。
- ・「はたらく」変化はないが向き合い方が違ってきている。生きていく上で必要なことで自分にとって欠かせない物・夢中になれる物。ワークライフバランスは境目がない状況。
- ・「はたらく」立場の中で変わっていく。誰かの未来に関わる。一人では「はたらく」ことは出来ない。チームで「はたらく」その中で影響を受ける。一人で仕事をしている人も人とのつながりがあり責任がある。「はたらく」は大事に捉えていきたい。
- ・若い時は、どれだけ長く働くかを意識していた。長く働いても楽しく面白いと感じていた。子育ても含めてワークライフバランスは大事。経営職になると考えざるをえない、多様な方の働き方をチーム力として業務で考えていく。

② しごと部会後期の取組みとして自立支援協議会の理解・促進について

- ・ボトムアップの形で実際に活動するそれぞれの部会があるがその取り組みに

	<p>関わる仕掛けを用意したい。しごと部会として、合同説明会やセミナーなどとして関係者に参加してもらっていたが、実際に見て共感してもらうプロセスを通じて他の部会にも同じように実践してもらうのはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委託相談で関わっている部会はわかっているが、その他の部会についてはわからないので傍聴することで知る機会を作る。 ・オブザーバーとしての参加や傍聴されると緊張感をもって会に参加できる。 ・開かれた会議・見える会議は良かった。 ・サービス管理責任者の課題で出ていたが最初の知識で何回も聞くことでつながっていった。自分で調べることも大事だと思う。 ・セミナーに参加型にすることで、話し合っ自分事として考えると積極的に考えてもらえるのではないか。 ・企業にアンケートを行い、結果をフィードバックする事で知る機会になる。
4.その他	<p>〈委員より〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末に報告したが宝塚育成事業所の方が来てメンテナンスの授業をした。昨年度は 1 類型(比較的軽度、B1・B2)口頭指示やマニュアルでクリアできる方、今年度は、2 類型(1対1で明確に指示が必要)の方がチャレンジした。福祉用具のメンテナンス、ベッドの消毒作業を行った。事業所で働いている方が来て校内で事業所の雰囲気を経験できたことが良かった。これを学校で定着させ繋がりを活かし行く必要がある。 ・学校で合同説明会が出来ないかと話し合いをしたが色々な事情で出来なかった。その中でしごと部会からの繋がりで新たな取組みとして行っている。学校との事前打合せを何度も行い実施している。 ・ハローワーク雇用情報等について(別紙参照)

第 3 回 しごと部会 会議議事録	
日時・場所	令和 7 年 9 月 12 日(木) 14:30 ~ 16:00 会議室 A および Zoom
出欠者	出席者 14 名 欠席者 5 名
議題	内容(決定事項等について)
1. 共同受注窓 ログッドジョブ からの報告につ いて	<p>〈グッドジョブ理事長熊淵氏より〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期実績報告については、次回会議にて報告。 ・新しく 1 事業所の加入があり、29 事業所になった。 ・今年度は年 3 回の勉強会を予定している。 8 月 22 日(金)勉強会、11 事業所 15 名が参加。 10 月 6 日(月)ソリオホールにて「就労洗濯支援の解釈と運用について」 17:30~19:30 2部制で行う予定。支援者は参加可能で、案内を行う。

<p>2.「事業所合同説明会」の報告・振り返りについて</p>	<p>〈合同説明会の報告・振り返り〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月2日(土)13:00~16:00 アピアホールで実施。 ・来場者数:110名 ・来場者アンケートの結果。回収率は昨年度より低かったが、説明会で聞きたいことが聞けた、冊子の内容が良かった、各ブースが工夫されて分かりやすかったなど満足度は高かった。 ・説明会終了後1時間事業所にとって良かった点・改善点、全体として評価できる点・改善点についてグループワークで振り返りを行った。(5グループ) ・今後の開催に向けて準備段階から積極的に関わってもらえるよう年明けから作業部会メンバーを招集予定。 <p>〈参加した委員からの意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所によって差異があったのが気になった。事業所に対するアプローチがあっても良いのではと思った。 ・以前、中央公民館で開催した時よりも行きやすさがある。早めにチラシを配布したので良かった。毎年開催できるのは良かった。伊丹は昨年と今年なかった。伊丹から通っている生徒もいるので伊丹ではないのかと聞かれた。伊丹に同じような事業所はないかと聞かれることがあり進路担当としては良かった。 ・親の参加が多く、本人の参加は少ない印象だった。サービスの特色を出していけるようにしたい。知りたいと思うことを知ってもらえたのではないかと。 <p>〈振り返りの意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所によって偏りが目立った。 ・もう少し準備してきたらよかった。 ・知識不足で説明が出来ない事があった。 ・事業所としてしっかり発信できるものを考えられるようにしないといけない。 ・他の事業所を知っている事で、説明の幅が広がるので対象者が有意義になるように横のつながりが持てるようになると良いと思う。 ・当日、準備に慣れているので開場がスムーズに行われていた。 ・計画相談員の参加が少なかった。 ・今回は福祉事業所合同説明会だったが、いずれは、障害(がい)者雇用を考えている人や実習先を見つけたいニーズもあるので今後検討してはどうか。
<p>3.協議事項について</p>	<p>〈しごと部会後期の取組みについて委員からの意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グッドジョブが行う「就労選択支援について」の勉強会は、宝塚市ですすめていく必要がある。知識を共有し考える機会や学べる機会をつくる。 ・就労選択支援について、労働局の文章が具体的に降りてきていない状況。具体的なことが分かれば研修が出来るのではないかと。 ・精神、発達障害(がい)の方のしごとの養成講座や事業所向けに雇う場合の注意事項や寄り添い方の講座を実施予定。初めての障害(がい)者雇用に向

	<p>けて配慮についての企業向けの研修はどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同説明会は学生が中心だと思うが、ステップアップするための企業や事業所を対象の説明会はどうか。(次につながる支援として) ・理解を深められる研修。 ・実際に受け入れている企業の成功体験を聞く。 ・障碍(がい)者雇用をしている最先端の取組みの事例を知りたい。ここなら自分も働けるかもしれないと気づきになる研修。 ・10月から就労選択支援はどこが中心に行うのか。始まるにあたり阪神北ネットワークの勉強会に参加している。行政から就労選択支援を周知すると学校は動きやすい。学校は学校のアセスメントが必要で学校のアセスメントの力を高める必要がある。連携は必要だと思う、宝塚市の方向性を教えてほしい。 ・他市と足並みを揃えることは難しいと思うが情報共有はしていきたい。違いを教えてもらい行政間で共有していきたい。 ・差別解消法の研修。 ・「はたらく」で意思決定支援の講演、意見交換。「働くまで」と「働いてから」の意見も含めて共有出来たらどうか。(「はたらく」を深めるセミナー) ・当事者の声で働いて苦労した、場所や当事者の声を聞かせてほしい。 ・明石市で8月末に就労選択支援フォーラムを実施し、150名定員の所200名以上の申し込みがあった。解釈がずれないように委託相談・計画相談・事業所向に研修は必要。 ・就労継続支援 B 型事業所からステップアップするため、情報提供を行い選択してもらう支援が出来るよう気づきのきっかけとなる研修。 ・市内の事業所が増えている状況、正しい情報を伝えていくことが大事。 ・ガイドライン、法制を正しく理解する事でボトムアップを図る。 ・親に向けての啓発も必要ではないか。 ・年4回しっかりと研修を行う。 <p>〈次回の協議事項〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度実施していくための準備(時期・回数・内容等)
4.その他	<p>〈西宮公共職業安定所より〉・障害者合同就職面接会の案内(別紙参照)</p> <p>〈兵庫県立こやの里特別支援学校〉・消毒の実習授業を9月、10月に行う。</p>

● こども部会 活動経過報告

第1回 こども部会 会議議事録	
日時・場所	令和7年6月2日(月)13:30~15:00 会議室B及びZOOM
出欠者	出席者:12名 欠席者:5名
議題	内容(決定事項等について)
1.自己紹介	各委員より自己紹介を行う。(所属・氏名・仕事内容)
2.自立支援協議会について	・基幹相談より組織図に沿って説明。 ・本年度より障碍(がい)福祉基金活用検討会が発足。
3.こども部会について	<p>【昨年度の報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たからっこノートのリニューアルに向けた取組み 保護者からのアンケートをもとに改訂していく。 ・たからっこお助けブックの配布 案内ポスターを作成した。関係機関で掲示予定。 <p>【今後の日程と会場】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2回 8/4(月)13:30~15:00 会議室B 第3回 10/6(月)13:30~15:00 3-A 会議室 第4回 12/1(月)13:30~15:00 会議室B 第5回 2/2(月)13:30~15:00 会議室B <p>【部会長・副部会長の承認について】</p> <p>部会長・副部会長の選任を行う。</p>
4.アイスブレイクとグループワーク	<p>テーマ1〈週間休みがあったら何をしたいか。〉</p> <p>テーマ2〈どんな部会にしたいか。〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育・福祉・行政での情報交換がしやすい場 ・顔の見える関係性づくり ・普段の困りごとが相談できる <p>テーマ3〈グラドルールの設定〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報に関する資料は分かりやすく簡潔に作成する。 分野が異なると、資料の内容が難しいことがあるため。 ・専門用語の使用を控える。 誰もが意見交換に参加できるようにするため。
5.たからっこノートアンケートの	<p>【アンケート内容の修正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・⑧選択肢“持っていない”→対象者への配布ができていないこともあるため、

承認及び配布方法について	<p>“貰っていない”に変更する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・⑧“貰っていない”と回答した場合、アンケートが終了してしまう。 →⑯から⑰を回答して、意見をもらう。 ・現在のたからっこノートは、成績・学習面の情報が載っていない。 →⑰に成績・学習面での記載を尋ねる項目を追加する。 ・得意なことや不得意なことが分かれば、支援に活かすことができるのでは。ないか→⑰に得意・不得意についての記載を尋ねる項目を追加する。 ・②“1つだけマークしてください” →複数の機関に所属している場合があるため、複数回答を可能とする。 ・アンケートの締切りを7月末日とする。 <p>【アンケート配布先】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たからづか支援学校…PTAの集まりがあれば配布可能。予定を確認する。 ・保育企画課…保育所へ配布する。 ・教育委員会…各小中学校の特別支援学級の方へ、配布を呼びかける。 ・幼児教育センター…公立幼稚園なら配布可能。私立は集まりがなく難しい。 ・県立こやの里特別支援学校…学校全体で配布する。 ・聖隷はぐくみ花屋敷…特定相談支援所連絡会で相談員へ周知し、配布。 ・事務局…アンケート配布に協力してもらえる委員へ個別に配布方法等の確認を行った後、各機関・関係者へ配布する。
--------------	--

第2回 こども部会 会議議事録	
日時・場所	令和7年8月4日(月) 13:30~15:00 会議室B及びZOOM
出欠者	出席者:15名・事務局:5名 欠席者:2名
議題	内容(決定事項等について)
1.委託相談の会議見学について	自立支援委員会各部会の全体把握のため、本日より委託相談の相談員が見学で参加する。
2.たからっこノートアンケートについて	<p>【進捗状況の共有】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7/14(月) 障碍(がい)福祉課より依頼文を添えて各機関へ配布を依頼した。配布時期が遅れたため、アンケートの回答期限を8/15(金)までに延長した。 ・8/4(月) 午前の時点で約240件の回答を確認した。
3.たからっこお	【進捗状況の共有・依頼】

<p>助けブック案内 ポスターについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「QRコード」は商標登録されていたため、「二次元コード」の訂正シールを貼って配布する。 ・B4 で 200 部準備し、市内の産婦人科・小児科・薬局へ配布を予定。 ・委員へ各所属先でポスターの掲示に協力を依頼。 ・必要枚数の連絡は基幹相談まで。
<p>4.たからっ子ノートの改訂に向けたワーキングメンバーの選出</p>	<p>【ワーキングメンバーの選出】 ワーキングメンバーを選出した。</p> <p>【改定の実施方法について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート集計後、今秋頃～令和 8 年度に向けて改訂に取り組む。 ・適宜こども部会委員へ確認し意見を反映しながら、ワーキングメンバーを中心に行う。
<p>5.グループワーク</p>	<p>テーマ〈日々、子どもと関わる中で感じる課題・困り事について〉</p> <p>事前に事務局と 3 役で行った会議では、引きこもり・ネグレクト・孤立・発達特性がある子についての意見があり、どのような機関がどのように支援を行っているのか可視化することを話し合ったことを共有する。</p> <p>学校関係、福祉・相談関係、行政関係の 3 グループに分かれて意見交換を行った。</p>
<p>6.次回について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの集計結果をもとに、たからっ子ノートの改訂に向けて協議を行う。 ・第 2 回こども部会で集まった意見をもとに、サブテーマについて検討する。

令和7年度 宝塚市自立支援協議会事務局会議 会議議事録			
会議名	宝塚市自立支援協議会 事務局会議	場所	市役所3階 3B会議室 他
		開催 日時	10:00~12:00
議題	内容(決定事項等について)		
開催日	4月 9日(水) 5月14日(水) 6月11日(水) 7月 9日(水) 8月13日(水) 9月10日(水)		
定例報告	<ul style="list-style-type: none"> ・各地区における新規相談件数の報告 ・各月の地域活動報告、情報交換 ・自立支援協議会専門部会、特定相談支援事業所連絡会の報告 ・グループ活動の取組 ・一人一言トピックス 		
前年度との変更点	<ul style="list-style-type: none"> ・グラドルールを設け、委員の発言が活性化するよう環境調整した。 ・地域課題の抽出のスムーズステップとして、地域活動や日々の支援で感じることを、「一人一言トピックス」というテーマで発表する時間を設けた。 ・新たに事務局内において、地域移行、他職種連携、地域活動、防災、人材育成のグループを立ち上げ、基幹相談支援センターと各委託相談支援事業所が活動をしている。 		
今後について	<ul style="list-style-type: none"> ・「一人一言トピックス」の意見を整理し、相談員の質の向上や地域課題の抽出へつなげていく。 ・新たに立ち上げたグループにおいて、防災マップの作成や、地域移行支援に関するパンフレットの作成等行い、障碍(がい)のある人が自立し、安心して暮らせるまちづくりを目指して活動していく。 ・前年度に引き続き、特定相談支援事業所連絡会にも輪番制で参加し、委託相談支援事業所と特定相談支援事業所の情報共有及び連携の強化を図っている。また、各専門部会の橋渡しとして意見を発信・調整していく。 ・11月に面接技術の向上を目的とした相談員向けの研修を行う。 		

令和7年度 宝塚市自立支援協議会 特定相談支援事業所連絡会 活動経過報告			
会議名	宝塚市自立支援協議会 特定相談支援事業所連絡会	場所	市役所第2庁舎 会議室B 他
		開催 日時	13:30~15:00
議題	内容(決定事項等について)		
開催日	4月22日・5月27日・6月24日・7月29日・8月26日 9月30日 いずれも火曜日に開催		
定例報告	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障碍(がい)福祉課福祉サービスチームより支給決定に関する連絡及び質疑応答 ・ 基幹相談支援センターより情報提供 ・ 各事業所からの連絡事項・周知等について ・ 自立支援協議会専門部会の報告 		
体制について	<p>① 特定相談支援事業所による企画及び進行の試験運用 従前より基幹相談支援センターが企画及び進行を行っていたが、相談支援専門員からの課題抽出や、調整機能の向上を図る目的として、特定相談支援事業所が司会進行を担当する会を2回設けた。</p> <p>② 委託相談支援事業所等との相談体制の強化 委託相談支援事業所が輪番制で参加し、グループワークのファシリテーターを担うことで、特定相談支援事業所との双方の情報共有と連携を図る場として位置付けた。</p>		
相談員向けの研修について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 阪神北圏域コーディネーターについての研修を開催。 <p>令和7年9月30日(火) 13:30~15:00 場所: 第2庁舎 会議室AB 講師: 阪神北圏域コーディネーター 神谷 牧人氏</p>		
今後について	<p>相談支援の中核的人材である主任相談支援専門員との連携方法の整理を図り、相談支援専門員の質の向上に向けた取組・個別課題を抽出できる仕組み継続して検討を進める。</p> <p>(研修については、成年後見制度・生活保護制度についての研修のほか、個別事例検討会等を開催予定)</p>		